

よこすか景観 ニュース

第15号 発行 2015/01/01
よこすか都市景観協議会



写真提供：横須賀市(2006年撮影)

. Y O K O S U K A C I T Y .

～ 近代遺産・横須賀製鉄所が残したもの ～

横須賀製鉄所とドックの歴史

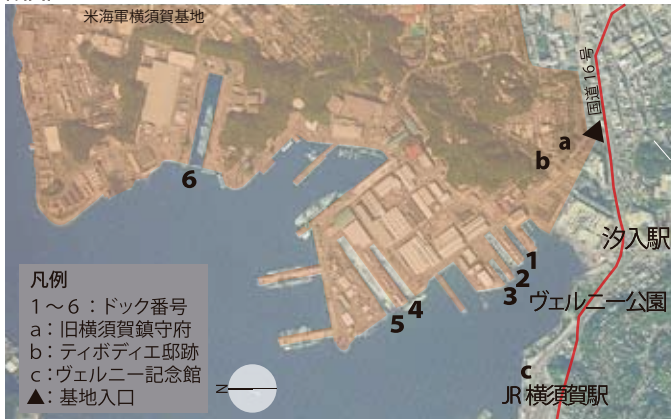
□ ドライドック～幕末から昭和の近代産業遺産～

横須賀市は古くから海軍の街として知られていますが、旧横須賀製鉄所(造船所)の跡地は、今も米海軍横須賀基地として使われており、その敷地内には幕末から昭和にかけて建設された6基のドライドックが現存しています。

横須賀製鉄所は慶応元年(1865年)に江戸幕府により開設され、横須賀造船所、横須賀海軍工廠へ姿と名称を変えながら日本の造船技術をリードしてきました。

艦船の修理用施設として重要なドライドックは、海に面した地盤の強固な土地を、船の大きさに合わせて掘り下げて建設されています。ドライドックの建設は技術的困難さもさることながら、膨大な建設費が必要な国家プロジェクトでした。

MAP



□ 幕末から明治初期のドック

日本で最初に建設された石造りのドックと言われる「第1号ドック」は、フランス人技師ヴェルニーの指導のもと、慶応3年に起工され明治4年に竣工しました。1号ドック

に続いて建設された大小2基を合わせた3基のドライドックは、ドック技術史上極めて重要な遺構だといわれています。



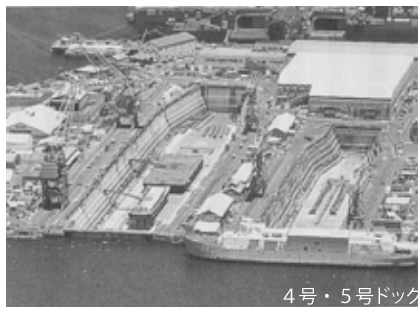
1号・2号・3号ドック
引用元：新横須賀市史 別編 文化遺産

□ 明治後期～大正時代のドック

明治38年に竣工した第4号ドックは、日露戦争を経て竣工した、軍艦の大型化に対応した最初のドックです。

構造はコンクリートおよび石造りで、日本人の手によって築造されました。その後、昭和に入ってから延長工事が行われ現在の4号ドックの姿になっています。

大正5年に竣工した第5号ドックは第4号ドックよりさらに大きく、戦艦や航空母艦といった大きな軍艦を修理することが可能です。

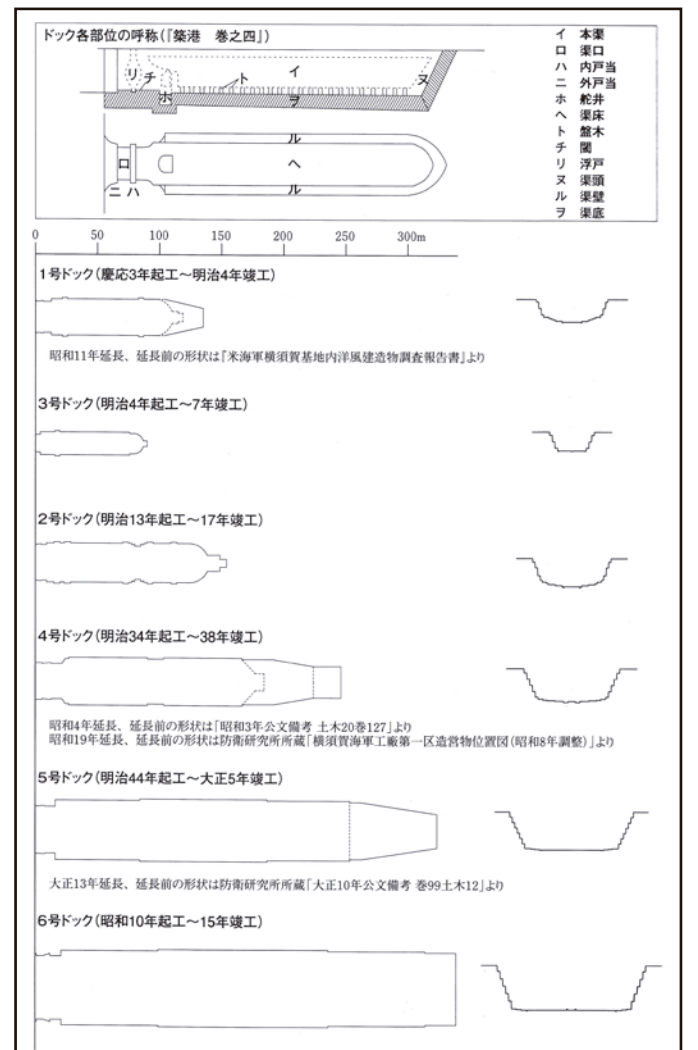


4号・5号ドック
引用元：新横須賀市史 別編 文化遺産

□ 昭和のドック

昭和10年に起工された第6号ドックは、横須賀のそれまでのドックと違い、造船用ドックとして建設された全長365メートルという巨大なものです。昭和15年に竣工すると、大和型戦艦の3番艦「信濃」建造が始まりました。しかし太平洋戦争の戦局の悪化により計画が変更され航空母艦として完成しますが、空母信濃は進水のわずか54

日後に米軍潜水艦の魚雷を受け沈没しました。戦後はその大きさを生かし、米海軍の航空母艦の修理・整備にも使われています。(栗田委員)



図：1～6号ドックの大きさ比較

引用元：新横須賀市史 別編 文化遺産